

巻頭言



熊本県立天草高等学校
校長 馬場 純二

本校は平成29年4月からSSHの指定を受け、「サイエンスの宝島『天草』から世界へ」を合い言葉に、「地域の豊かな自然環境の中で多様な能力を身に付け、世界に飛躍する科学技術人材の育成を目指す」のテーマのもと、「多様な視点を身に付けるための探究活動の充実」〈自ら求めて学ぶ探究心育成のための教育課程の開発及び授業改善〉〈我が国の科学技術の発展や安全に貢献できる人材の育成〉に取り組んできました。

第I期5年間で、理系の進学者、特に女子の工学部への進学者がSSH導入前から約4倍に増加するなど、課題研究を実施することで理工系進学者を増やし、そのことが将来の科学技術人材育成に繋がることを明らかにすることができました。また、自然科学に興味を持って入学してくる生徒の割合も、平成29年度9%から、令和3年度30%へと3倍増になっており、天草サイエンスアカデミー等で地域に研究成果を発信し続けたことが成果に繋がっています。

開発研究の中心となる学校設定科目「天草サイエンス（AS）」の取組では、ア 指導過程・指導法・自己評価票及びルーブリックの確立、イ 課題研究の評価法（評価と指導の一体化）の構築、ウ 生徒の課題意識の拡張等が著しい成果として顕われてきました。

特に、天高版科学技術人材育成のために、「5つの力」（A 問いを立てる力、B 情報を収集する力、C 情報を分析する力、D 対話する力、E 創造する力）が必要であることを明らかにし、それぞれの力を養成するために「13の探究場面」の設定が有効であることを明らかにできたことは、第II期以降への研究に繋がる成果だと思っております。

また、科学部で5年間継続研究してきた地球温暖化対策の研究が国内外で高い評価を受け、「STI for SDGs」アワードで次世代賞を受賞したことが「サイエンスアゴラ」や「エコプロ」等の参加に繋がりました。研究成果を社会に実装する研究者や企業との交流を深め、活動の幅を広げた生徒たちは、自らの研究成果を根拠とした社会への提案を発想し、「環境シンポジウムアマプロ2021」として行政を巻き込みながら自ら発信するに至りました。この環境シンポジウムの開催は、本校が天草地域のサイエンス拠点校として、持続可能な社会を自治体や住民とともに創り出す拠点となる可能性を示しています。それらのエッセンスを、この度まとめることができました。

これまで、研究開発の推進あたり、文部科学省、国立研究開発法人科学技術振興機構、運営指導委員会及び熊本県教育委員会をはじめ、多くの関係機関の皆様方の御指導・御支援に対し心より感謝申し上げます、発刊のあいさつといたします。